

ボランティアに活用

AMDAの
関係者招き 中村区で講演会

市民に、インターネットを使った新しいボランティア活動を紹介する「ボランティア大会」が三日、名古屋市中村区那古野一の名古屋国際センターで開かれ

た。ボランティア活動への一般の理解を深めてもらうと、センターが十年前から毎年一回開いているもの

で、今年はインターネットを用いた活動を展開しているAMDA（アジア医師連絡協議会、本部・岡山県）の関係者を講師に招き、「AMDAの緊急援助とインターネット」と題した講演会を開催した。

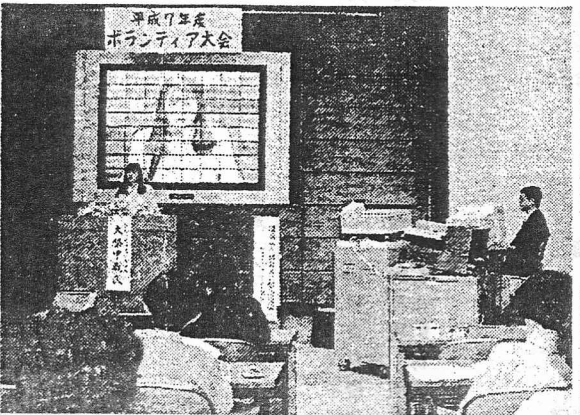
昨年八月、NGO（非政府組織）の中でもいち早くインターネットを取り入れたAMDA本部の片山新子さん（三）は、講演の中でその効力として①世界に五千万人いると言われるインターネット利用者に、活動を

広く正確に知ってもらえる②世界各地で起きた災害の情報を迅速に収集、対応を検討できる③活動資金の募金を簡単に呼びかけられる——などを挙げた。

片山さんは「地震などの災害は、現地に向いてから被災の規模が分かったのでは遅い。救援に何が必要か、どれくらいの人員を派遣したらいいのかを把握することが、効率のよい救助活動への近道」と話し、情報網を駆使した新しいボランティア活動への参加を呼び掛けた。

この日は会場に約百人が訪れたが、そのほとんどが主婦。ホームページ「アップクス」など聞き慣れない単語をメモに取りながら、真剣な表情で講演に耳を傾けていた。

講演会ではこれに先立って、実際にAMDAのスタッフとして、アンゴラやルワンダへの救助活動に参加した愛知国際病院の整形外科医、大塚甲哉さん（三）の現地報告もあった。参加者からは「言葉は通じたのか」「医療を施すときに困った点は」などの質問が飛び、ボランティアへの関心の高さを見せた。



インターネットを利用したボランティア活動を紹介する「AMDAの緊急援助とインターネット」の講演会、中村区の名古屋国際センターで三日